

体育（運動）の「楽しさ」を深める

【プロフィール】

三郷市立中学校教諭（3校）、松伏町教育委員会主任指導主事、県立スポーツ研修センター指導主事、県教育局健康教育課指導主事、県教育局保健体育課指導主事、八潮市立潮止中学校校頭、三郷市立桜小学校長、三郷市立前川中学校長、県教育局保健体育科主席指導主事、三郷市立南中学校長、現職に至る。

埼玉県立大学 教授 ^{たかし} ^{ひろし} 高橋 宏至



1 日頃思っていること

「よい授業をやりたい」と教師なら誰でも思っていることです。逆に言えば、「よい授業をやりたい」と思わなくなったら教師失格でしょうか…。

今でも大学生を相手に、よりよい授業をしたいと思っている私がいることに気が、「私はやはり、教師になってよかった」とつくづく思います。

教育公務員特例法にも「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」とされています。

私も、永く教育関係の職に就いていますが、研修とは研究と修養をあわせた言葉です。私たち教師の世界では、「研究会」は数え切れないほど経験しましたが、「修養会」は一度も経験したことがありません。ふと、疑問に思いました。私たち教師は、研修が必要という以上、研究と同時に修養も欠くことができないのではないのでしょうか。よい体育授業を目指す前に、よい教師を目指すことも必要不可欠な要件であると考えてるのは私一人でしょうか。

2 初任者の頃から心掛けていたこと

私は人前に出るのが苦手な、話すのも得意ではありませんでした。（嘘つくなという声が聞こえてきそうですが、）そんな私が初任者の頃、当時の指導主事からよく言われていた言葉がありました。

「高橋さん、よい授業をしたければ、次の3つは忘れるなよ…」

私は、いつもこのことを頭に置いて、授業をしていました。また授業研究会等では、他の先生方にも伝えてきました。それがこの3つです。

- ①学習指導要領（解説）は熟読したのか？
※学習指導要領（解説）には、授業のヒントがいっぱい書いてあるぞ。
- ②学校体育必修（学校健康教育必修）は熟読したのか？
※学習指導案のページだけじゃないよ。県の課題や施策、データなど宝の山だよ。
- ③他の先生の授業をいっぱい見たのか？
※他の先生の授業を見て、よい所を自分の授業に取り入れているか。ただし、同じようにやっても、同じ授業はできないよ。自分のオリジナルを確立しなさい。

3 指導主事の頃思ったこと

当時、私はよく次の2つのことを考えていました。

(1) 運転免許証と教員免許状

運転免許証は、教習所等で知識・技能が認められ、運転免許の試験に合格すればライセンスがもらえます。有効期間があり、更新しなくてはなりません。

教員免許状は、大学または短大で単位を取得するとライセンスがもらえ、都道府県・政令指定都市等の採用試験に合格すれば正式採用となります。ただし、教員免許にも更新があり、更新しないと失効します。

運転免許の試験に合格すれば、晴れて車の運転ができます。最初はエンストしたり、バックしてぶつかったり、ぎくしゃくした運転ですが、次第に慣れてきます。何年かすると「自分は運転がうまいのではないかと自己満足し、運転が荒くなったり「私は事故は起こさない」などと自己中心的な発想になったりします。

一方、教員採用試験に合格すると、晴れて新任教員として児童生徒の前で授業をします。はじめはドキドキして、うまく授業ができません。何年かすると「自分は授業がうまいかも」「こんなもんでいいか」などと自己満足した授業になってしまうこともあります。

油断したとき、ちょっとした過信から交通事故を起こしたり、またヒヤリとしたりすることもあります。教師も自分の力量を過信して授業がマンネリ化すると児童生徒からの信頼・尊敬・憧れも少しずつ遠ざかってしまうのではないのでしょうか。

(2) 医師と教師

病気になってA病院に行きました。医師から「あなたは、大変な病気です。この薬を飲まないと決してよくなりませんから」と言われました。心配になってB病院に行きました。医師から「あなたは、大変な病気です。でもこの薬を飲めば、きっとよくなりますよ」と言われました。さて、どちらの医師の言葉の方が気が楽になるのでしょうか。結局、薬を飲むことに変わりはありませんが…。

体育の教師が跳び箱の指導をしていました。A教師は、「もっと手を前の方につくようにしないと跳べないぞ」と声掛けをします。一方、B教師は、「もっと手を前の方につけば、きっと跳べるようになるよ」と声掛けをしました。どちらの教師の声掛けの方が、子供は意欲を増すでしょうか…ここが私たち体育教師の腕の見せ所ですね。

4 体育（運動）には楽しさの深まりがある

体育（体育領域・体育分野・科目体育）は体を通して学ぶ教科です。運動する（体を動かす）ことは人間の本能であり、一般的に「体を動かすだけでも楽しい」も

のです。また、「体を動かしたい」という欲求もあります。その分、体育の楽しさは実現しやすく、他の教科よりもスタート地点で既に恵まれていると言えます。

実際の授業に目を向けてみても、教師が単に「サッカーをやっているね」といえば、子供たちは「サッカーをしているだけで楽しく、汗をかいて、運動量も十分」でしょう。また、子供によっては、「跳び箱を跳んでいるだけでわくわくする」こともあるでしょう。でも、それだけで終わってしまったら、楽しさは長続きしません。私たち教師は、運動そのものの持っている楽しさだけに頼っていないでしょうか。

そこで、どのような工夫をすれば、楽しさが長続きするのか、教師が授業をつくる上で心掛けたいポイント等を「体育（運動）の楽しさの深まり」で考えてみましょう。次の図1を見てください。順を追って説明します。

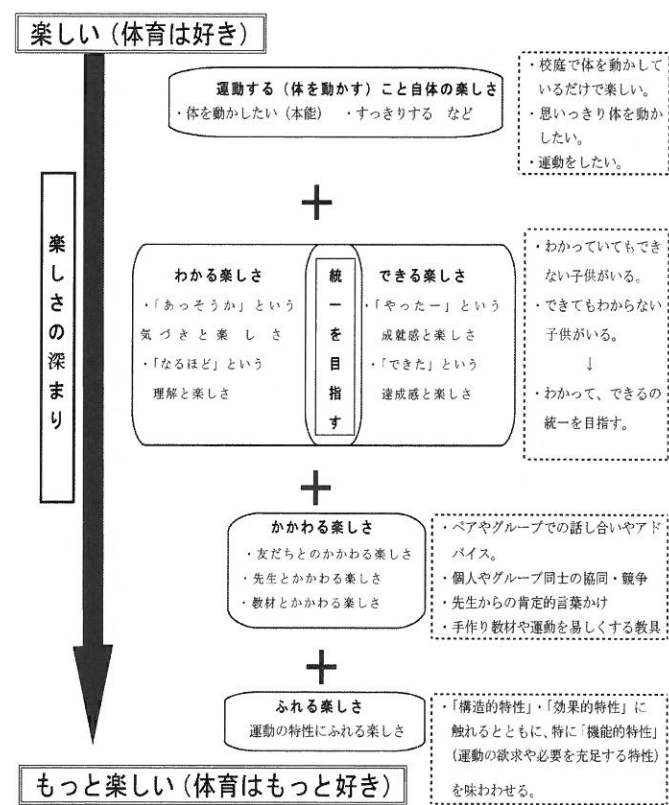


図1 体育（運動）の楽しさの深まり（高橋宏至作成 2020）

図の①のように、体育には「運動する（体を動かす）こと自体の楽しさ」があります。ただし、それは領域や種目の持っている楽しさや個人の楽しさにとどまっています。したがって、やがて学習が飽和して慣れてきます。これに②を加えると、もっと楽しくなります。

図の②です。体育には、『「わかる」「できる」楽しさ』があります。鉄棒をしているとき、Aさんは、友達や先生からアドバイスを受け、「やり方は理解している」が、どうしても「できない」。一方Bさんは、「やり方」など教わらなくても、一発で「できてしまう」。これが体育（運動）だということを認識してください。つまり、「わかる」と「できる」は違う場合があります。しかし、この2つが統一されると、体育（運動）はもっと楽しくなる。ということです。私たちが目指

す体育授業も「わかる」と「できる」の統一にあります。さらに体育（運動）には深い楽しさがあります。

図の③です。体育には「かかわる楽しさ」があるということです。個人的な運動や集団的な運動等様々な分類の仕方があり、また体育には様々な領域や種目もあります。いずれにしても「友だちとかかわる楽しさ」「先生とかかわる楽しさ」「教材とかかわる楽しさ」の3つもかかわる楽しさがあるということです。体育は、他の教科以上にかかわる楽しさを見つけやすいといえるのではないのでしょうか。そして、楽しさはさらにプラスされ深まります。

図の④です。体育には「ふれる楽しさ」があるということです。体育でふれることのできる特性には次の3つがあります。

- 構造的特性
【技術的な仕組みに注目した特性】
例：バレーボール・ネットを挟んで、相対するチームがボールを落とさないようにつないでゲームをする。
- 効果的特性
【心身の発達に対する効果に着目した特性】（身体的、精神的、社会的効果）
例：体力（瞬発力）、態度（友達との協力）
- 機能的特性
【運動の欲求や必要を充足する特性】（その運動で味わえる魅力・楽しさ）
例：バレーボール・ポジションの作戦を立て、サービス、レシーブ、スパイクを使い、役割分担などをしながら勝敗を競い合う。
※体育の授業づくりで大切にしたい。

子供たちにふれさせたい特性は3つありますが、体育の授業では、特に「機能的特性にふれる体育授業」をつくるのが大切です。子供たちは「機能的特性」にふれる体育授業を経験することにより、その運動の持つ楽しさにふれ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し「豊かなスポーツライフ」を実現する資質・能力を持つ児童生徒の育成につながると考えています。前述の②、③、④には順序性はありません。

5 終わりに

以上の説明からも分かっていただけだと思いますが、「運動（体育）は楽しい」ということで、他教科と比較してスタート地点で優位に立っていることを再度強調します。

しかし、それにあぐらをかいてはいけません。「やったー」「できたー」「なるほど」「まだやりたい」など、子供たちの歓声が聞こえる体育の授業を目指したいものです。もっと楽しい（体育はもっと好き）という子供を育てていくのが「体育を担当する教師の使命ではないか。」と老婆心ながら苦言を呈して私の原稿の終了といたします。

〈参考・引用文献〉

- ・小学校学習指導要領解説（文部科学省 2017）
- ・中学校学習指導要領解説（文部科学省 2017）
- ・高等学校学習指導要領解説（文部科学省 2018）
- ・体育の授業を創る（高橋健夫著：大修館書店 2010）